まちの食土間

_background

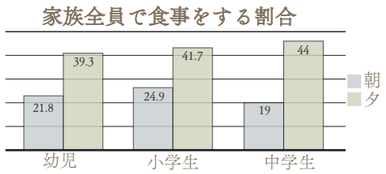
地域と繋がる保育園のあり方

かつて、子供たちは、地域の大人たちとの触れ合うことで、様々なことを学び成長してきた。しかし、都会だけでなく地方でも、地域内のコミュニケーションが希薄になり、大人と触れ合う機会が減少している。園児が１日の半分以上を過ごす保育園はかつてのような地域と関わりながら育てる場であるべきではないか。

食についての現状

食卓を囲む

家族全員で食事をする割合



誰もが日常的に行う『食』は多世代においてコミュニティを構築してきた。また、食事は親から子へと受け継がれる文化であり、幼児期の食習慣がその後の人生に大きく影響してきた。しかし、核家族化に伴い、共働きの過程が増え、子供の孤食が増加している。

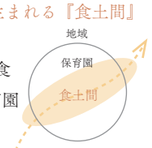
_consept

街の食土間

『食土間』＝ 食（学び　コミュニティの構築）× 土間（土足でふらっと立ち寄れる空間）

地域の大人・子供がふらっと立ち寄ることができ、『食』を通じて自然と園児たちとの交流が生まれる『食土間』を提案する。

『食土間』を取り入れることで街の食卓のような、地域の人々で溢れる保育園を目指す。



_program

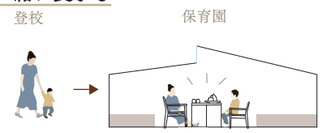
食を共にする場として

保育園の中に地域に開いたカフェ・食土間空間を設ける。地域と保育が食を介して交わることで、地域が育てる保育園に。

○地域の人々、食材

地域の人々が集う、豊橋の食材を取り入れた地域食堂。

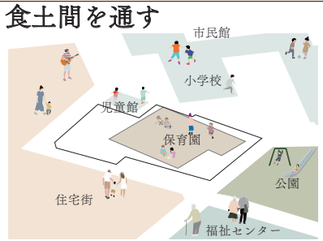
○一緒に食事を



園児の送り迎えの際に一緒に食事をとれるような場に。

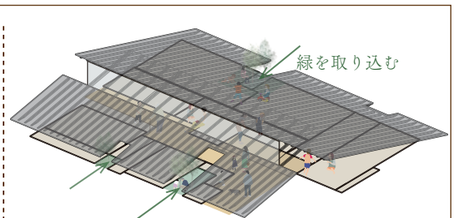
_form

食土間を通す



小学校や福祉施設、住宅街が周辺にあり、多世代が住まう敷地

中央に食土間が通ることで、地域と繋がる。

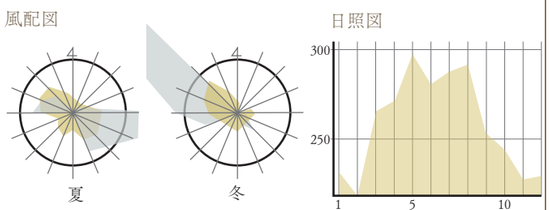


大きな屋根で覆うことで家のような空間を作り出す。また、屋根の開口からは、光、緑を取り込む。

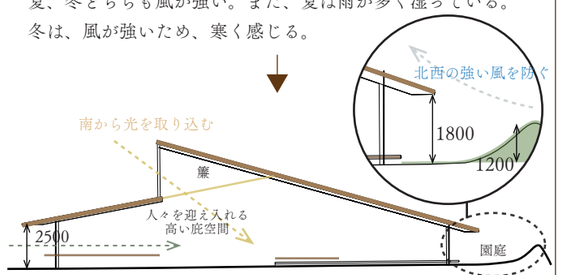
_diagram

豊橋市の気候・風土に寄り添う

風配図　日照図

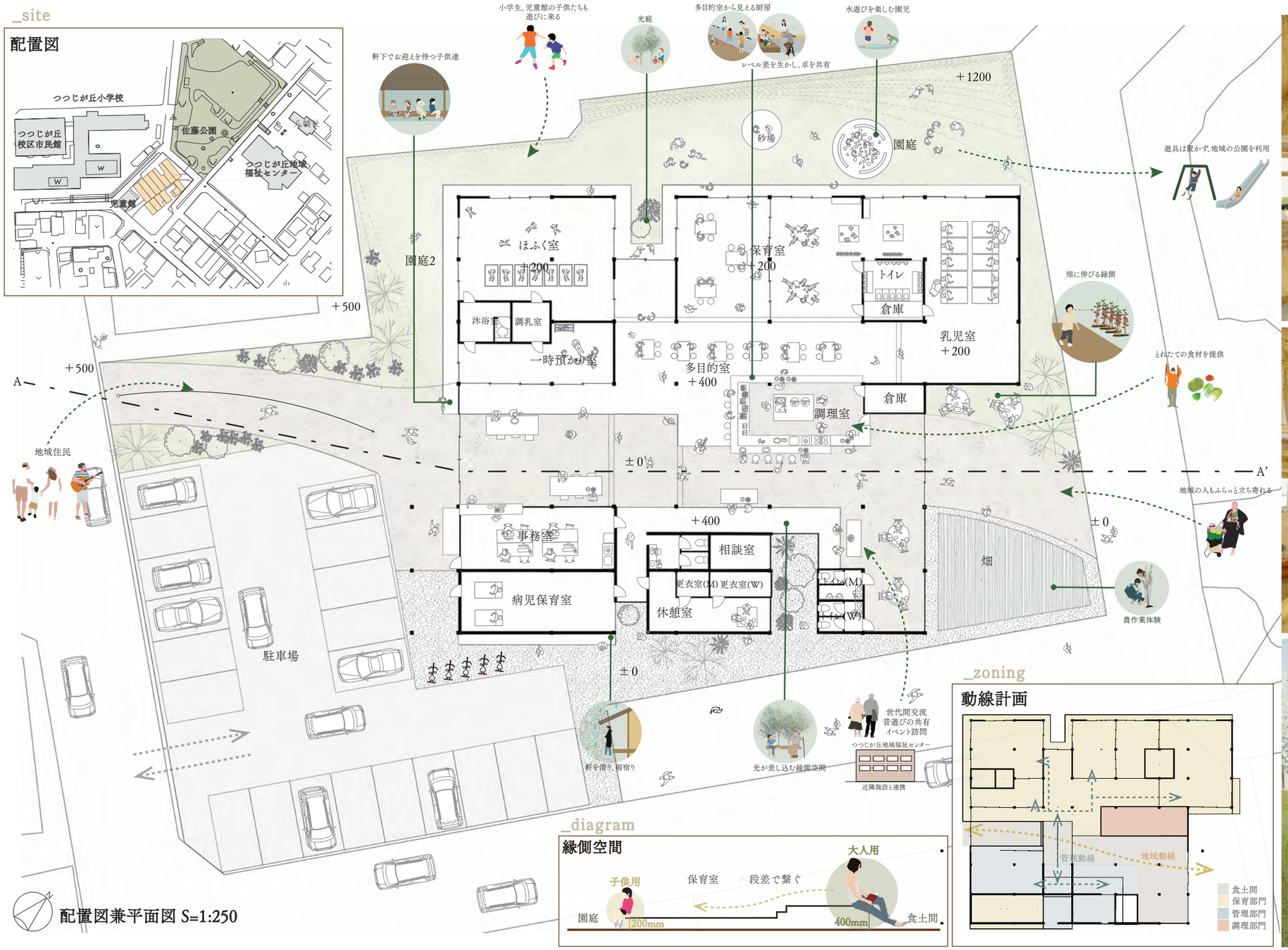


夏、冬どちらも風が強い。また、夏は雨が多く湿っている。冬は、風が強いため、寒く感じる。

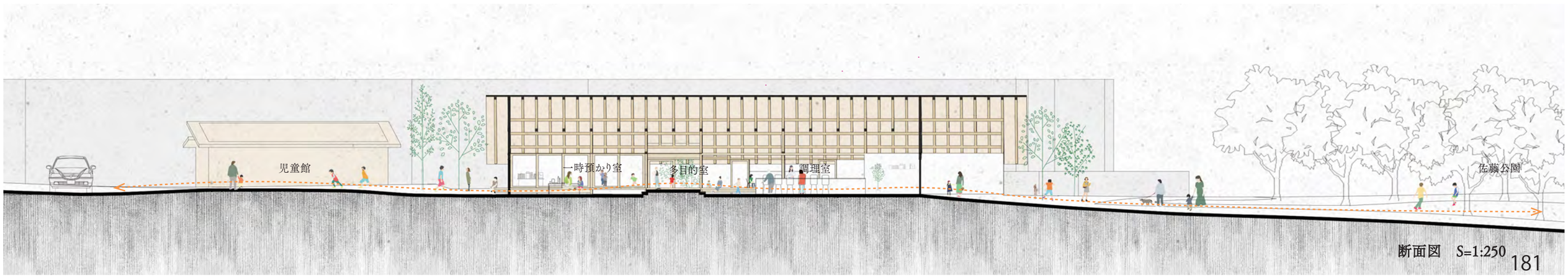


風向きや日照条件による屋根の配置。また、土間で一段上がることにより、風通しが良くなり、夏は涼しくなる。

_site



食土間を中心に広がる地域の輪

屋根のズレにより、保育室に光が降り注ぐ

園庭と保育室を繋ぐ縁側空間